

大会テーマ

令和の日本型学校教育を踏まえた特別支援教育を目指して

本校研究テーマについて

令和の教育的ニーズを踏まえた各教科等を合わせた指導

- 授業づくりを通して -

テーマ設定の経緯について

中央教育審議会 令和3年答申

- ・「予測困難な時代」において、「資質・能力」の育成が一層強く求められ、そのために**新学習指導要領の着実な実施**が重要である
- ・「**個別最適な学び**」「**協働的な学び**」という視点から学習活動の充実の方向性を改めて捉えなおすことが重要と示された

第四期 教育振興基本計画

- ・日本社会に根差したウェルビーイングの向上がコンセプトの一つであり、協働性、利他性、社会貢献意識など（一部抜粋）が重視される
- ・社会情動的スキルやいわゆる非認知能力を育成する視点も重視される

⇒ これまで特別支援教育が大切にしてきた**個に応じた手だて**や、各教科等を合わせた指導のように、**他者と関わり合いながら学習する活動**の在り方が、より重要な意味をもつと考えられる。

学校教育目標

「児童生徒一人ひとりが、仲間とともに活動する中で、個性を存分に発揮し、目当てと見通しをもちながら、自立的・主体的に生活できるようになる」

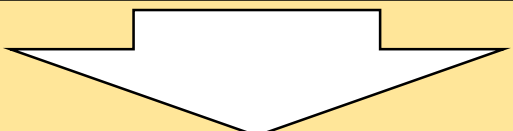
本校の近年の取り組み

- ・ 各教科等を合わせた指導を教育課程の中心に据えている
- ・ 合わせた指導の意義について、現代的な視点からのとらえ直し
- ・ 活動の中にある学びや、そのプロセスの言語化

本校の立場として...

より良い教育のあり方を、合わせた指導を通して模索している

「各教科等を合わせた指導」
の特性に注目すると...



① 知的障害のある子どもが活動を通じて、
自ら学ぶための手だて

② 「個別最適な学び」 「協働的な学び」 の一体的
な実現との親和性

③ 合わせた指導の柔軟性と改善の可能性

① 知的障害のある子どもが活動を通じて、自ら学ぶための手だて

特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編より

知的障害のある子どもたち

知識・技能の断片化

生活場面への
般化の困難さ

求められる対応

- ・日常生活や社会に**生きて働く知識**及び**技能、習慣や学びに向かう力**が身に付くような指導
- ・生活に結びついた**具体的な活動**を学習活動の中心に据えた、**実際的な状況下**での指導

⇒ 合わせた指導は、生活や学びの文脈に即した学習活動を展開しやすい授業の形態であることから、知的障害のある子どもの学びに効果的である

① 知的障害のある子どもが活動を通じて、自ら学ぶための手だて

「資質・能力を使って『考えながら』学ぶ」「知識を使う文脈で学ぶ」ことの有効性

※国研ライブラリー 資質・能力 理論編より



このような視座から
「遊び」「生活上のテーマ」「作業」
のような文脈に沿った活動を中心
とした授業を行う中では...

引き出される姿

子どもたちが様々な力を使おうとする姿

- ・自分なりの目的意識をもって取り組む
- ・結果的にはできなかったが、やろうとした
- ・周囲の友達との関わりの中でできた など

⇒ 合わせた指導は、子どもが自ら「**かんがえる**」学習過程を通して、「**内面**」を働かせて学びを深める姿を引き出す ⇨ 資質・能力の育成に効果的であると考えている

※2019年～本校の研究より

② 「個別最適な学び」 「協働的な学び」 の一体的な実現との親和性

本校の合わせた指導で
伝統的に大切にされている視点

- ・「**子ども主体**」であること
- ・「仲間や教師と**共に活動**し（中略）生き生きとした姿で、活動し、生活する」姿
- ・「今日に満足し、明日を楽しみにする」生活

（小出進，2002）

令和3年答申

「個別最適な学び」

- ・**子ども一人一人の特性**や学習到達度等に応じた柔軟な指導方法や教材の提示
- ・**子ども自身**が学習の自己調整をする

「協働的な学び」

- ・探求的な学習や体験活動などを通じ、多様な**他者と協働**
- ・**対話**によって異なる考え方が組み合わせられ、より良い学びを生み出す

⇒合わせた指導の授業改善を通して、資質・能力の効果的な育成を目指す

③合わせた指導の柔軟性と改善の可能性

合わせた指導に対する指摘

- ・各教科等を合わせた指導は、生活や学びの文脈に即した学習活動を構成・展開しやすい側面がある一方、すべての教育活動場面において万能的に機能するわけではない（丹野、2022）
- ・社会の変化や多様性に応じる柔軟性も各教科を合わせた指導の特徴の1つであると考えられる（菊地、2022）

⇒新しい時代の学びの実現を目指して、令和時代に求められる教育的ニーズの視点から合わせた指導の授業改善を図り、今日的意義の明文化と授業づくりのポイントの整理を行っていきたい

研究テーマについて

研究テーマ

**令和の教育的ニーズを踏まえた各教科等を合わせた指導
- 授業づくりを通して -**

研究方針

- ・ 2年間の研究テーマとする
- ・ 各学部の実情に合わせた課題設定ができるように、学部ごとにサブテーマを設定して研究に取り組む
- ・ 近年取り組んできた、子どもの「内面の働き」の見取りを重視する研究の成果を継承し、考察や授業改善の視点に生かす

小学部研究テーマ

遊びの指導における児童一人一人に期待する活動と学びの見取りに視点を当てた授業づくり ― 遊びを通した学びのつながりを意識して ―

令和3年中央教育審議会答申より

- ・資質・能力の育成に当たっては、幼児が主体的に環境と関わり、直接的・具体的な体験を通して豊かな感性を発揮したり、好奇心や探求心が高まったりしていくなどの幼児期の学習を、小学校以降にもつなげていくことが重要である
- ・資質・能力を確実に習得させるためには、個々の児童の状態をより丁寧に把握し、個別的な対応を行う「指導の個別化」が重要である

⇒遊びの指導において、個の見取りやねらいの設定をより良く改善し、遊びの指導における学びと、他の授業や生活場面における学びとのつながりについて考察する

中学部研究テーマ

一人一人が目的をもって共に活動できる生活単元学習の授業づくり
ー 協働的学びに生かすロイロノート ー

令和3年中央教育審議会答申より

- ・ICT活用が有する新たな可能性を、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげていくことが必要とされている。
- ・ICTの活用モデルを確立していくために、「子どもはいかに学ぶか」「どう支援するか」を問い直していく。国立大学附属学校は、このような不断の授業改善に取り組む教師のネットワークの中核としての役割を果たしていくことが求められる。

⇒一人一台配備されているタブレットを活用し、授業支援クラウド「ロイロノート・スクール」を効果的に活用しながら、協働的な学びを実現できるような生活単元学習の授業づくりについて追及する

高等部研究テーマ

生徒が活動に意義や価値を感じられる作業学習の授業づくり
ー 地域に開かれた作業学習の取り組みを通して ー

学習指導要領より

・社会に開かれた教育課程の重視

令和3年中央教育審議会答申より

・各高等学校においては、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的、職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力や地域の諸課題についての認識を深めるなどの力が身に付けられるよう、実社会との接続機能を果たすことが求められる

⇒地域に開かれた作業学習の取り組みを通して、生徒が活動に意義や価値を感じられるような作業学習の授業づくりについて迫及する

本校の各教科等を合わせた指導 ～2019年度からの取り組みについて～

教育課程の例示（中学部）

週 日 課 表					
	月	火	水	木	金
9:00	登 校				
	着替え・朝の学習・朝の会				
9:30	全校朝会 (月2回)	朝 の 運 動			
10:15	生 活 単 元 学 習 / 作 業 学 習				
12:00	給 食 ・ 昼 休 み				
13:00	※児童 生徒会 活動	※ 発見 タイム	チャレンジタイム (国/数/自活)	清掃	チャレンジタイム (国語/数学/自立活動)
13:30	※ 学級 活動		音/美/保体	帰りの会	音楽/美術/保健体育
13:50				14:00 下校	
14:30	着替え・帰りの会		14:00 下校	着替え・帰りの会	
15:00	下 校			下 校	
※ 全校朝会のある週:児童生徒会活動・学級活動 全校朝会のない週:発見タイム(総合的な学習の時間/職業・家庭)					

合わせた指導を帯日課として配置
午前の中心的な活動としている

小学部 → 遊びの指導
生活単元学習

中学部 → 生活単元学習
作業学習

高等部 → 作業学習
生活単元学習

午後は教科・領域ごとの内容を
中心とした授業を実施している

2019年度～2021年度 研究

「深い学びを支える知的障害特別支援学校の授業作り」

- ・「資質・能力」の育成に求められる「主体的・対話的で深い学び」の「深い学び」に焦点をあて、合わせた指導の授業改善を行った。
- ・思考の過程＝「内面を働かせる姿」をキーワードに、子どもの学びの姿をエピソード記録に書き起こし、それらを分析することで、10のカテゴリーに分類した「深い学びの姿」の表を作成した。
- ・「深い学びの姿」を手掛かりに、授業づくりの視点を整理した。
- ・これらを踏まえて学部ごとに遊びの指導（小学部）、生活単元学習（中学部）、作業学習（高等部）における学びの観点表を独自に作成した。

千葉大附属版 深い学びの姿（令和元年度作成）

新しい視点に気付く、ひらめく

視点を変えながら物事を見る

出来事の因果関係、物の性質への
視点をもつ

視点を変えながら物事を見る

モノとモノを比べる

性質を観察する

違いに気付く

試行錯誤する、工夫する

試行錯誤する

目的に合った方法を探る

予測する（仮説を立てる）

次はどうなるか予測する

…大グループ

…中グループ

知識や経験を生かす

経験と「今」をつなげる

熟達する

方法が熟達する

目的・役割への意識をもつ

集団の中での自分の役割と、自分が
今していることを比べる

活動の目的と自分のしていることを
比べる

人と共有する

人と共感し合いたい

活動の目的を人と共有する

信頼をベースに活動する

人に合わせる

挑戦する

目的のために、気持ちや行動を調整
する

上手くできたことを実感する

自分の力を発揮したい

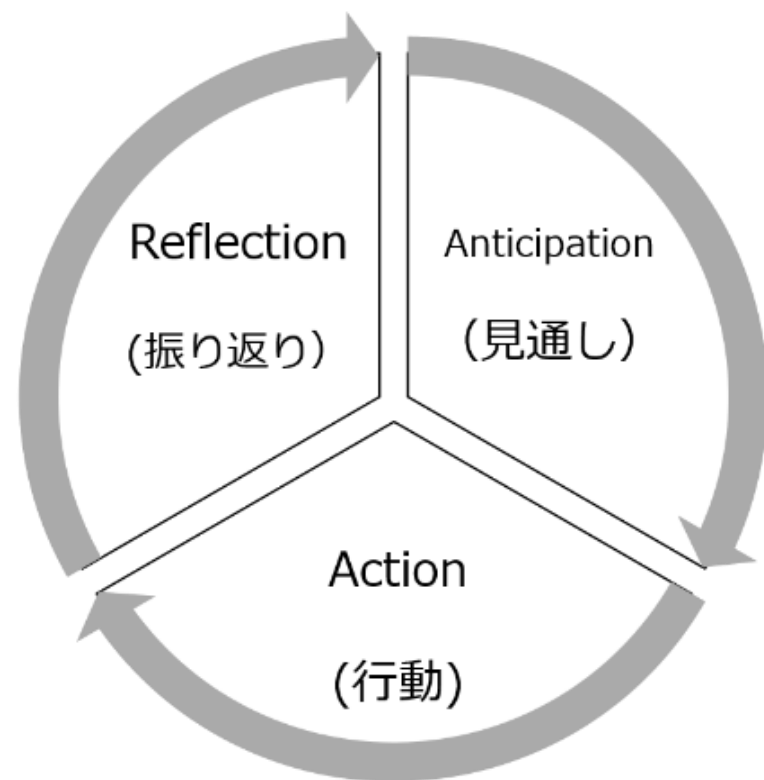
上手くできた実感を得る

あきらめない、くじけない

⇒ **非認知能力的な側面からの学び
や成長の見取りも重視している**

2022年度～2023年度 研究

「子どもが自ら学びに向かう各教科等を合わせた指導の 授業づくり -AARサイクルを生かした実践-」



AARサイクル

- ・ OECDの「ラーニング・コンパス2030」で示された、学習者が継続的に思考を改善したり、意図的かつ責任ある形で行動することができるような、反復的な学習のプロセスである「AARサイクル」をキーワードにした。
- ・ 知的障害のある子らの「かんがえる」姿をより引き出すような授業改善を目指し、子どもの学びの姿の見取りと考察から、授業づくりのポイントとして整理し、まとめた。

本校における「AARサイクル」の捉え

→活動を通して生まれる、必ずしも言語化されない子ども一人一人の思いや気持ちといった「**内面**」の揺れ、働き（「**かんがえる**」姿）をとらえるための手掛かりとなる学習のプロセス

クレヨンを砕き、型で溶かし固める活動では…

Anticipation
見通し（予想）

この型でクレヨンを作りたい！



Action
行動

これくらいの量で作ってみよう

Reflection
振り返り

取り出すときに割れちゃった！次は作り方を変わてみよう



エピソード記録による分析と評価

知的障害のある子らの、言葉で表されないような「内面」を働かせる姿をとらえるために、「**エピソード記録**」を作成して個々の学習の過程を見取る

エピソード記録によって...

- ・前後の文脈を含めて子どもの姿を記録できる
- ・周囲の状況（どんなきっかけで、誰の助けを借りて行ったのか）を含めて子どもの姿を記録できる
- ・特定の目標だけではなく、多面的に学びを捉えられる
- ・教師の見取った「子どもが何を考えているか」を記録できる

⇒ **内面的な育ち**を支える授業作りや支援の在り方を目指している

エピソード記録の例（遊びの指導より）

「どうやったら、粘土に色がつけられる？」

- ・ 絵の具や色水のコーナーがある。「小麦粉粘土に色を付けてみよう」とひらめいたようで、絵の具コーナーに向かう。筆を使って絵の具で色を付けるが、もっと色を付けたような様子。絵の具に水を足して色水を作り、そこに粘土を浸してみる。どろどろになった粘土を見て、「やーめた」といった様子で場を離れる。
- ・ 10分後、また粘土を持ってコーナーに戻ってくる。色水を台の上に流し、そこに粘土を付けて色を付ける。透明版に粘土を押し当てて、色が付いているかを確認している様子。

「深い学びの姿」の観点表からは...

→ 目的に合った方法を探る

→ （物の）性質を観察する



色をぬるといったら、筆だよね、あれ、でもあんまり色がつかない



うーん、まだイマイチ色がつかない他に使えるような物はないかな



いろんな色の色水かけちゃえ！あ、だんだん粘土に色がついてきた

ご清聴　ありがとうございました